表す 感じる かほく防災記者 リポート

釜石―インドネシア・アチェ 交流事業に参加

避難行動の大切さ実感

東日本大震災の教訓や災害への備えを学び、発信するかほく防災記者で仙台青陵中等教育学校5年の高橋杏奈さん（17）と秀光中3年の大橋もも音さん（15）が7日、国際協力機構（JICA）が岩手県釜石市で開いたインドネシアと東日本大震災の被災地の中学、高校生による交流事業に参加した。

事業は2004年12月のスマトラ沖地震・大津波20年に合わせて企画された。津波被害を受けた釜石市とインドネシア・アチェ州をオンラインで結び、両国の生徒ら50人が参加した。

高橋さんは宮城県内各地の震災遺構の視察や語り部の話から、「災害時に素早く正しい判断を行うのは難しい。事前に避難訓練で練習し、もしもの行動を決めておくことが大切だ」と強調。「困難な状態を乗り越えるには、周囲の人たちとの協力も欠かせない」と語った。

オンラインで防災などの取り組みを発表し合う両国の生徒たち

宮城県石巻市に住んでいる大橋さんの家族は、1960年のチリ地震で津波被害がなかったことなどから、震災の時に避難をしなかったという。防災に関心をもった理由について大橋さんは「津波が来て私と母は雪が降る中、屋根で過ごすことになった。家族の体験を聞き、避難行動の大切さを実感した」と述べた。

岩手県大槌高復興研究会、釜石高有志の団体「夢団」、アチェ州の中学校2校の生徒も災害伝承や防災の取り組みを発表した。

命守る気持ち同じ

大橋もも音さん

アチェ州の中学生と交流をして、国は違っても災害の教訓を生かし、津波から命を守る取り組みへの気持ちは同じだと感じた。復興や防災の討論では、自分には思い浮かばなかった意見も出て、いろんな発見があった。インドネシアについて、もっと知りたくなった。

「復興」も学びたい

高橋杏奈さん

アチェ州の中学生や岩手県の高校生と交流し、被災者が笑顔になるにはどうすればよいか、考えを深めることができた。アチェ州の中学生による地震、津波対策のポスターやマップ作りも印象に残った。これからは防災だけでなく、被災地の復興についても学びたい。

子どもたちの学力向上に！

河北新報の

出前授業

活用しませんか

教育に新聞を活用するNIE活動に取り組む学校が、年々増えています。新聞は子どもたちの学力向上、読解力アップにつながります。河北新報社は、新聞活用を後押しするため、社員による出前授業を行っています。

ただいま元気に開催中

出前授業 主なメニュー

新聞の読み方（小学校高学年以上） 楽しく実践
新聞を5分で読む方法、インターネットとの違いなどを説明。新聞を読み比べ、多様な考えがあることも学べます。

文章の書き方（中学生以上） 楽しく実践
新聞記事は分かりやすい文章のお手本。記事の書き方の基本を学ぶことは、伝わりやすいレポートやビジネス文書作成に役立ちます。

まわしよみ新聞（全世代向け） 楽しく実践
気になった記事を切り抜いて紙に貼り、選んだ理由を発表します。多様な視点や考えがあることを学べます。

報道写真の役割（全世代向け） 震災学ぼう
写真専門記者が震災現場などの写真を素材に、報道写真の役割を説明。効果的な写真の撮り方も学べます。

新聞の作り方（小学校高学年以上） 楽しく実践
修学旅行新聞や学級新聞の作り方を説明。取材方法、記事の書き方、効果的なレイアウトを紹介します。

防災ノウハウ（全世代向け） 震災学ぼう
地域巡回防災ワークショップ「むすび塾」担当記者が、地域の防災力を高めるノウハウを紹介します。

※上記は出前授業の一例です。内容はご相談ください。

河北新報　出前授業　検索

お問い合わせ先：河北新報社 防災・教育室 TEL:022-211-1309 FAX:022-211-1339 E-mail:kyopro@po.kahoku.co.jp

出前授業メニュー一覧はwebでご覧いただけます